



# 校長便り 第15号



お昼休みの様子から

## 道徳意識調査の結果から

2学期末に、児童用タブレットで実施した道徳意識調査の結果についてお知らせします。主な質問項目の肯定的回答（「そう思う」「少しそう思う」）の割合は、以下のとおりでした。【 】内は、1学期比

- いじめはどんな理由があってもいけない:100%【±0】
- 頑張りたいことや目標をもっている:88.9%【-3.7】
- 人が困っているときは進んで助けている:90.7%【-1.9】
- 学校のきまりを守っている:94.4%【+1.8】
- 自分にはよいところがあると思う:79.6%【±0.0】

1学期よりも若干下がっている項目もありますが、9割程度の肯定的回答ですので、学校全体としては大きな荒れはない状態かと思います。集大成の3学期、次のステップに向けて、心身共に成長・安定するよう保護者や地域の皆様の協力を得ながら励みたいと考えています。

しかし、「自分にはよいところがある」という自尊感情に関する項目が、1学期同様80%に達していません。学校や家庭で、自尊感情を高める（安定させる）ために、できることをお伝えします。

### ＜学校と家庭で＞

#### 1. 成功体験を積み重ねる

「自分でもできる」という感覚が自尊感情の土台となると言われています。

- (1)高すぎる目標でなく、子どもが達成可能な小さな目標を設定し、達成感を味わわせる
- (2)結果だけでなく、そこに至るまでの「頑張り（努力）」や「工夫」に焦点を当てて褒める ⇒ 失敗を恐れず、挑戦する意欲を育む
- (3)学級や家族の中で、役割を与えることで、「自分は役に立っている」という感覚をもたせる

#### 2. 自己理解を促進し、多様な価値観を認める

自分の得意なことや苦手なことを理解させ、自分らしくあることを肯定的に捉えられるようサポートすることが大切です。

- (1)強みと個性の把握：子どもの得意なこと（絵を描くのが好き、友達を笑わせるのが上手など）を見つけ、認める。学校の成績だけが価値基準ではありません

- (2)ポジティブな言葉がけ：日頃からポジティブな言葉を使い、子どもの自己評価が下がるような否定的な言葉避ける
- (3)他者との比較をしない：兄弟姉妹や友達と比べるのではなく、子ども自身の過去の姿と比較して成長を認める

### ＜主に家庭で＞

#### 1. 無条件の愛情と安心感を育む

子どもは、ありのままの自分を受け入れてもらえるという安心感の中で自尊感情を育みます。

- (1)無条件の受容：良い成績を取った時だけでなく、失敗した時や言うことを聞かない時でも、「あなたのことが大切だ」というメッセージを伝える
- (2)スキンシップと対話：抱きしめたり、一緒に遊んだりする時間をつくり、愛情を言葉や態度で示す
- (3)話をじっくり聞く：子どもの気持ちや考えに耳を傾け、共感することで、「自分の意見は尊重されている」と感じさせる

楽しみいっぱいの冬休み。大切なお子さんに対して、以上のことを家庭の方で心掛けていただきますようよろしくお願いします。

## かさこじぞうを披露しました -2年生-

12月19日(金)の午前中、2年生が川北公民館2階で、日頃の感謝の気持ちを込め、川北ふれあいサロンのみなさんに「かさこじ蔵」の劇を披露しました。お年寄りになじみのある話でしたので、みなさんに喜んでもらえて良かったです。



## 「朝の読み聞かせ」ありがとうございます

先週木曜日に、川北読み聞かせ隊のみなさんによる2学期の「朝の読み聞かせ」が終わりました。暑い日も、寒い日も、欠かさず子どもたちに本の世界を伝えていただきありがとうございました。3学期は、1月15日(木)朝スタートです。新年も、どうぞよろしくお願いいたします。

